

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年7月31日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1670200763		
法人名	医療法人社団市野瀬和田内科医院		
事業所名	緑彩館		
所在地	富山県高岡市戸出市野瀬393-3		
自己評価作成日	平成30年6月18日	評価結果市町村受理日	平成30年9月3日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社
所在地	富山市荒町2番21号
訪問調査日	平成30年7月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

緑彩館の職員は開設以来長く勤務している者が何人かいます。職員も環境の一部と考えています。たとえ認知症であってもその人らしい生活ができるように、安心感と居心地の良さを与え、環境を整えることで実現できるように全職員で努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

利用者一人ひとりの状態に合わせて、夏場はお茶をゼリー状に冷やし、飲みやすくするなど、職員は色々とし恵を出し合い、日々の暮らしを支援している。併設のデイサービスの利用者や地域のボランティアと一緒に運動会を行い、笑ったり真剣になったりしながら楽しいひと時を過ごすなど、張り合いを持てるよう工夫している。また、医療法人の特徴を活かし、健康管理に留意し、医療面の安心につなげている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人ひとりが地域の中で生きがいのある自立した生活が出来るよう日ごろから話し合っています。日常のケアの中で、思いやりの心、いたわりの心、愛する心など「福祉の6か条」を掲げ管理者と職員が話し合いながら実践にむけて取り組んでいます。	理念を具体的に実践するため職員で話し合っつくった「福祉の6か条」を、日々の支援につなげているかケア会議や申し送り時などで確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方に畑で採れたものや庭の花をいただいたり、町内の獅子舞に來訪いただくなど交流しています。	散歩時には、近所の人達と気軽に挨拶を交わし、「お花持って行かれ」などと声をかけてもらっている。また、「ひまわり一座」の余興を併設のデイサービスの利用者や地域のボランティアと楽しむなど、地域とのつきあいを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議のときに地域の方の参加があるので認知症の症状や対応など話すようにし、理解を深めてもらうように努力しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、ほぼ2ヶ月に1回開催し、日々の生活の様子や報告、行事内容の検討をしたり、メンバー同士で町内の一人暮らしの方の情報交換などをされる場になっています。	運営推進会議では、事業所の日頃の活動を報告し、また、熱中症やインフルエンザなど、タイムリーな課題について助言を得ている。参加メンバーが、地域の福祉について語り合う場にもなっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高岡市の介護相談員派遣事業を受け、事業所の実情を見てもらい、サービスの質の向上や適正化を図るようにしています。地域包括センターの職員には、会議に参加してもらい相談することもあります。	介護保険制度の改正などの説明を受けたり、研修に参加した際に、事業所の現状を知らせるなど、市との連携に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を含め不適切なケアについて勉強会を行い、利用者に合わせたケアができるように工夫しています。道路工事のため、目の前の道路が迂回路になり交通量が増え交通事故の懸念があり、利用者、家族に了解をもらい玄関を施錠しました。	身体拘束の排除を基本方針としたマニュアルの作成や勉強会を行って、抑制のないケアに取り組んでいる。道路工事のため急激に玄関前の道路の交通量が増加した際には、家族の意見を聞き、鍵をかける弊害と事故防止について話し合いを重ね、止むを得ず玄関にカギをかけることとした。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の考え方や職業倫理について勉強会を行い、虐待が起きる可能性に常に目を向け不適切なケアを放置しない職員の関係づくりをしています。介護者は常に安定した精神状態で高齢者に暖かい思いやりを持って接しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	勉強会のテーマにして職員と学ぶ機会を持っています。家族から相談があった時は応じ、地域包括支援センターに相談したり、必要な機関を紹介したりしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約をする前に時間を取り、家族本人に説明しています。いつでも疑問や不安に思うことを話してもらえ関係づくりに努力しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時には、日頃の様子を伝え要望を聞くようにして、不安の解消に努め、意見箱を設置し自由に意見を書いていただくようにし、運営推進会議で検討する機会を設けています。	面会時には、食事や入浴の様子を見てもらい、要望を聞いている。家族との外出時の車椅子貸し出し等の要望に応じている。利用者には、ドライブ先などの希望を聞いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間の申し送りは毎朝、昼、夕と口頭と日誌で確認しています。報告事項は、随時管理者に伝え提案や意見は前向きに検討するようにしています。	除湿器などの物品の購入、納涼祭や運動会などの行事の企画、実施、業者によるワックスがけなど、様々な提案があり、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各々がやりがいを持って働いています。労働時間の配慮や勤務交代など職員の事情に合わせた配慮に努め、離職も少なく、利用者にとっても馴染みの関係となっています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護職経験年数に応じた研修に参加したり職場内で研修を行ったりしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県グループホーム連絡協議会に入会し、同業者と交流しています。勉強会に参加し、サービスの質向上のため取り組んでいます。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に本人がどのように暮らしたいか希望を聞く時間を設けて家族とともに不安が少なくなるようにしています。センター方式を活用しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの暮らしの中で悩まれていた事や苦勞された事を聞き、ねぎらい、介護者としての役割の喪失感についても支援していくようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容によっては、他に相談する機関（地域包括センター、他のグループホーム、特別養護老人ホーム）などを紹介します。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬する気持ちを持ちながら、現状を受け入れてあげられる生活を共に作っていく努力をしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運動会や納涼祭などに家族に参加してもらい共に作り上げていく喜びを感じてもらおうようにしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	認知症になってしまった方への接し方に戸惑いを感じておられる友人、知人の方が多いのですが、職員が会話の中に入り、和やかに過ごせる工夫をしたり、盆や正月に帰宅したり、外出したりして、親戚の方や知人と交流できるようにしています。	家族が近所の友人を連れて来たり、散歩中に出会った知人が、改めて、事業所に遊びに来てくれるなど、馴染みの人との交流を図っている。また、千保川沿いの桜並木の花見など、懐かしい場所へ出向くよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を考慮しながら座席を決めたり、居心地の良い時間を過ごせるように工夫しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されても、次の施設への情報提供や相談員の方と話し合う場を作り、少しでも本人や家族が不安なくいけるようにしました。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	認知症のために自分の思いを言葉にできるわけではないので、生活の中で一緒に時間を過ごすようにし、本人の思いを汲み取るようにしています。また、職員が本人と一緒にやりたい事をそれぞれ考え実行し、共に過ごす時間を作っています。	利用者がにっこり笑う様子やうなづき方など、日々寄り添う中から本人の思いを推し測っている。また、いくつかを提案し、利用者を選んでもらうよう心がけ、そこから見えてくる暮らし方の希望に気づくよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から情報を聞いたり、これまで利用していたサービス機関から情報提供してもらったりして生活歴や馴染みの暮らし方を把握できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事量や水分量、排尿、排便チェックをし、本人のその日の状態や生活リズムを掴むようにしています。できることはやってもらい、できないことは支援して、本人らしい自立した生活ができるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、出来る事出来ない事を見極め、出来る事をやってもらいできないことを支援するようにケア会議で検討し、作っています。	家族には「本人がどうあってほしいか」を記入してもらい、その要望などを取り入れながら、利用者ができることは継続し、できないところをどう支援するかをケア会議で話し合っって介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの介護日誌を作り日々の様子を観察、記録し、職員全員が目を通すようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お花見、ドライブなどの外出のためにデイサービスのバスの協力をお願いしたり、デイサービス利用者と交流したりしています。家族の方が食事の時間にいらっしゃった時は一緒に食べてもらったりしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	戸出警察署、戸出消防署に万が一の時の協力を依頼しています。町内の運営推進会議のメンバーの方に、散歩をしている方を見かけたら連絡をもらうようにして自由にしてもらっています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のほとんどが法人の医師をかかりつけ医として希望されています。歯科医の往診の協力もあり、本人、家族も安心されていると思います。	医療連携をとっている法人の内科医による受診を利用者全員が希望しており、医療面の安心につなげている。また、歯科医による訪問診療があり、入れ歯などを診てもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>医療連携している医院から看護師が訪問し、健康チェックをしています。必要な受診や健康相談ができるので職員も利用者も安心していきます。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院された際は情報提供し、家族が希望されれば、入院説明にも同行して説明を受けます。退院計画については、医師の指示のもと相談しながらもとの生活に戻れるように支援しています。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約の時点で本人、家族の希望を聞くようにし、事業所としての対応をお話するようにしています。重度化した場合は、容態を家族に説明し、看護師、主治医と相談してもらうようにしています。</p>	<p>看護師による利用者の健康管理をもとに、気になることがあれば速やかに法人内の内科医に診てもらい、今後の方針を話し合っている。本人や家族の希望があれば、医療関係者や家族と連携し、安らかな最期を迎えられるよう支援している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>勉強会を開催し急変時対応マニュアルを作成し、応急手当についての知識や職員一人勤務時の対応について日頃から学んでいます。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害時の対応について日頃から話し合っています。地域の方や家族の緊急電話連絡網を作成し協力を得られるようにしています。</p>	<p>火災については、日次点検表をもとに火の元の安全確認をしている。また、避難訓練を行うと共に、地域連絡網を作成し、地域の人達に協力してもらう体制をつくっている。水害については、マップで危険度を確認している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症のため生活の場面であらゆることが上手くできなくなっている方へ、それぞれの方の身になって考え、声かけや対応ができるように職員同士で情報を共有しながら支援しています。	職員は、利用者に対しても、職員に対しても労わる気持ちを大切にし、穏やかで気持ちの良い雰囲気をつくっている。また、利用者を人生の先輩として敬い、それぞれが生きがいを感じられるような対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	それぞれの方の理解力に合わせたコミュニケーションの方法をとっています。お風呂や今日着る服等日常的なことについて本人が自己決定できるように接しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴、レクリエーション等の時間を一応決めています。その日の天気や体調に合わせて変更したり、昼寝をしたり自由に過ごしてもらうようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝着る服や外出時など自由に選んでもらえるように支援しています。自分で決められない方には職員が、選んでもらえるような対応をするように努力しています。髪をとかず声かけなど、気を遣ってもらうようにしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態に合わせて刻み食、ミキサー食、トロミづけ等形態を工夫し、職員も一緒に食事をしていきます。準備や片付けも座ったままできるようなことを職員と共にやっています。	鮭のピンクと卵焼きの黄色が目鮮やかなチラシ寿司など、食欲をそそるような献立を工夫している。また、体調によっては、長い時間をかけて食事を味わうなど、一人ひとりのペースに合わせた支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量、水分量を記載し、体調管理の指標にしています。咀嚼力や歯の状態により副食の形態を工夫したり栄養剤に代替えしたりして栄養確保に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアの重要性を理解し、それぞれの方に応じた口腔ケアの方法で支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	できるだけ自立した方法で排泄できるように、トイレの誘導時間、パットの選択を工夫しています。	利用者の自尊心に配慮し、できないところをさりげなくケアしている。また、一人ひとりの体形や体調に合ったパット類を選び、利用者の心身両面の負担を軽減している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちの方の排便チェックシートを作成し、水分摂取を多くしたりお腹マッサージをするなど自然排便できるように取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	お風呂は毎日沸いていて、週に2回ほどずつ入ってもらっていますが、電気温水機なので、希望があればいつでもシャワーできます。利用者一人に職員が一人ついたり、二人つく人もいます。入浴ケアマニュアルを作成し安全で楽しみのある入浴になるようにしています。	一人ひとりの入浴マニュアルを作り、出することは利用者にやってもらい、できないことをサポートする支援に努めている。また、ヘアブラシよりも櫛で髪をとかしたいなど、本人の習慣や希望に沿って支援し、気持ちよく安心して入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングでテレビを観られる方や自室で観られる方、それぞれの方が自由にできるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の用法をファイルし理解するようにしています。服薬介助をしたり、ゼリーに混ぜるなど工夫し、症状を看護師に伝えています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人ができる事を支援し、できない事を少し介助するような生活をしています。そうじ、花の水やり食事作りなど、本人の力を生かせる場面を提供しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調に合わせて散歩や花見、おとぎの森公園にでかけるなど戸外に出たり、町内の獅子舞を見物したりしています。個人的な希望では、家族や兄弟などと外出を楽しまれています。	水田が広がる近隣を散歩し、柿などをもらっている。また、おとぎの森公園に出かけ、きれいなバラの花々を堪能するなど、ドライブを楽しんでいる。個別には、家族の協力を得ながらの買い物や法事などに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と話し合い、本人がお金を使える機会があるときに所持してもらうようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方には電話をかける支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、季節を感じられるようなおやつ作りや行事の写真を飾ったりしています。ダイニングキッチンでは食事の音や匂いを感じることができ、部屋の表札やトイレに「便所」など看板をつけて混乱が少なくなるようにしています。	玄関には、近所の人からもらったグラジオラスなど、季節の花を生けている。廊下には、ドライブや納涼祭などの写真を飾り、面会時に家族と眺め、あれこれと思い出を語っている。また、季節ごとに温度や湿度管理に留意し、居心地よく過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を置いてちょっと休めたり、ひとりで過ごせない方は事務所で職員と居たりと、思い思いの場所で過ごしていただくようにしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や馴染みの品を持ち込んだり、家族の写真を飾るなど本人の自由に使ってもらっています。	居室は、一人ひとりが好きに使える空間と考え、愛用の化粧品や母の日のプレゼントなどを置いている。また、遠方に住む孫が、祖父母の家に帰省したような雰囲気や寛ぐなど、居心地のよい居室をつくっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は段差のない作りになっていて、歩行機能が衰えてきた方は手すりが使えるようになっています。安全に移動されるように見守りをしたり、手をつないでいます。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 緑彩館

作成日 平成 30 年 8 月29日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	34 42 45	口腔ケア、入浴ケア、急変時などのマニュアルの見直しや整備が必要。	利用者さんの現状に合った個別のマニュアルや高齢者に多い急変時の初期対応マニュアルを作成する。	利用者の口腔内チェック、職員の思い込みケアなど、問題点を挙げそれぞれの方の現状に合った個別マニュアルを作成していく。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。